

～ドイツ海外研修体験記～

こんにちは。今年度より芦屋市スポーツ推進委員となりました村上です。私は昨春秋、(公財)ユーハイム体育・スポーツ振興会よりドイツへ海外研修に派遣して頂く機会を得ました。目的は『第28回TAFISAワールドコンGRESS 2023』への参加とドイツのスポーツクラブ視察でした。

“TAFISA”とは生涯スポーツの国際統括団体で、170を超える国と地域から383団体が加盟しています。世界中の地域と人々の日常に身体活動を取り入れてもらい、生活に楽しみ、健康、社会的な交流、地域の団結や発展をもたらす為にスポーツ・フォー・オールを推進しています。

2年に1度開催されるこのワールドコンGRESSでは人々の健康だけでなく、様々なテーマのセッションがありました。私が一番印象に残っているのは、オランダで難民の人々と地元の人々がスポーツを通じて交流するイベントを行ったところ、すぐに地元の人々と打ち解けたそうです。間違いなくスポーツには人々を繋ぐ力があり、それこそスポーツ・フォー・オールの意義、役割だと感じました。



ドイツにおいて地域の結びつきの中核をなしているのが、総合型地域スポーツクラブです。私が視察した TSV-Haar クラブは 2023 年に創立 100 年を迎えた歴史あるクラブで会員数約 4000 人、中心となる施設は敷地面積 6,000 m²以上の施設を有する歴史も規模もドイツ有数のクラブでした。当時 19 のスポーツ部門があり、今年新たに 2 つのスポーツ部門が新設されたそうです。それぞれが老若男女、競技志向も楽しむ人もスポーツを楽しめるようになっていて羨ましい限りですが、最も感銘を受けたのは立派なクラブハウスや活動拠点を持っている事、会員数が多い事ではなく、専任のクラブマネージャーやスタッフだけでなく、クラブ会員各々が自分のクラブを大切に思っていて、自分のプレイだけでなく、子供達への指導や、様々なイベントにボランティアとして積極的に関わり支えているというお話でした。

私は普段市内の様々な地域グループでスポーツ・運動を指導させて頂いていますが、それぞれのグループで言えることとして特定の人に運営の負担が集中する傾向がありました。研修後は、運動だけでなくこういったお話もさせて頂き小さくとも自分たちの体操クラブだという気持ちで仲間と一緒に運動を楽しんでもらえたらと思っています。